

2026年6月21日

北海道支部 支部長 田向 隆之

同 副支部長 柳原 真希

同志社大学 商学部 父母会 北海道支部

2026年度 父母懇談会 北海道支部 報告

■ 2026年度の父母懇親会が開催される

去る6月21日（日）札幌駅前のビル^{アスティオンゴー}ASTY45内にある^{アキユ}ACUにて父母懇談会が開催されました。

■ 北海道父母懇談会とは

遠く離れた京都で学ぶ子供達の背中を必要な時にそっと押せるよう、広大な北海道の各地に散らばる保護者らが集い、保護者自身が同志社大学商学部の学びや日常生活の注意点を学んだり、また先輩保護者の経験談から有益な情報を得たり出来る、年に1度の貴重な保護者交流の機会となっています。大学では高校迄当たり前に享受出来た教員から保護者に向けた積極的な案内は少ないため、情報が開示される機会を捉えて自ら情報を取得しに行く必要があります。

■ 父母親睦会スタート

11時30分。いよいよ時間となり、商学部父母会本会から来道された^{なかつか か ず こ}中司加寿子監事（大阪支部所属）の司会進行により始まります。^{たむかいなかゆき}田向隆之北海道支部長より、お集まり頂いた保護者へ来場のお礼とご挨拶を申し上げた後に父母親睦会がスタート。バランスのとれた弁当をいただき会話が弾む。遠地がゆえ、対面のコミュニケーションが取れないことで生じる大学生活にまつわる不安なこととして住まいや暮らしのことが話題に上がる一方、京都ならではのインバウンド向けの興味深いアルバイト！のこと、大学周辺に点在する歴史的建物についてなど気が付けば1時間が経過していました。

■ 商学部父母会の活動目的と意義と

そして休憩を挟み懇談会がスタート。同本会から来道された^{りょうひろゆき}梁 裕之会長（京都支部所属）からご挨拶と父母会に入って得た気付き、父母会の他の保護者から頂いた助言によりご自身とご子息が助けられたエピソードなど父母会活動の意義についてお話いただきました。続いて同本会より来道された^{おおにしけいこ}大西景子理事（大阪支部所属）により父母会の活動意義と事業活動について発表いただきました。



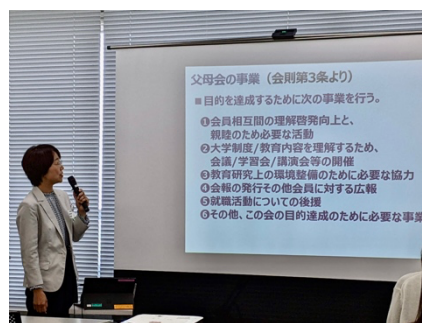
配付資料と商学部父母会参加特典のペン履修コースや習得出来る科目の資料や留学先紹介の資料もあり保護者側の心と財布の準備に向けて一読を勧めたい



会食を通して疑問や悩みを語らい経験知をお持ちの先輩父母の談話より学びを得て父母同士の親睦を深めた



父母会活動の意義を語る梁会長



父母会の事業活動を発表する大西理事

■商学部の教務について

つづいて教員のお二方をお招きしました。教務説明については商学部で主に会計制度と社会的厚生をご専門にされておられる教員、^{やまとたつし}山本達司先生です。履修コースについて、各年次に於ける単位取得の目安とボーダライン（これを下回ると教員から直接のご指導を賜る！ことになる単位数）について、深夜の華やかなアルバイトが犯罪に巻き込まれる恐れにあり、実際に学業に影響が出てしまったケースなど、保護者が予め気を配っておく留意点についてお話しくださいました。もしご家庭にて困り事がある場合は商学部事務室へご相談ください。



保護者も大学の仕組みを学ぶことでご子女に不測の事態が起ころうともご子女を問い詰めて（WHY）追い込むのではなく問い掛けて（HOW）共に考えることの出来る心の余裕を持つことが出来た貴重な学びであった

■商学部で学べるソーシャルマーケティングとは

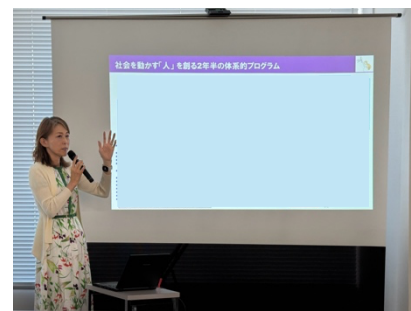
つづいて本年は商学部教員、^{うりゅうはらようこ}瓜生原葉子先生による講演です。瓜生原先生は、薬学部をご卒業された後に製薬企業で20年勤務され、臓器移植を受けた方が、術後に飲み続ける必要がある薬の開発に携わりました。しかし、日本で臓器移植の機会を得られる患者は限られており、どれ程良い薬剤を作っても、それを享受できる患者が少なく、中には移植待機中に亡くなる方もおられました。海外に渡航されるご家族もある中で全ての人が海外で移植を受けることが容易ではない中「日本で必要な時に必要な人が医療を受けられる、そんな社会を作ってください。」と、あるお父さんより悲痛な訴えを聞き固い握手をした経験が研究者としての道を選ぶ切掛けになったそうです。

そして、経営学を学ぶことがご自身の考える社会課題解決に必要と考え復学。現在はPh.D.（博士ー経営学）を取得。また、ソーシャルマーケティング研究センターのセンター長としてソーシャルマーケティング、行動変容マネジメント、組織行動論を研究。瓜生原先生は研究について、Behavior Change for



瓜生原先生が製薬企業で得た経験を糧にどうしたら望ましい形で人の行動変容が出来るのかゼミ生と一緒に課題に向き合う

Social Good（望ましい社会行動の自発的促進）を目指しておられます。基本概念としては、例えば北風と太陽を比喻にし、より強制でなく自発性（太陽が照らすと暑くなり服を脱ぐ）を引き出すこと。価値とコストの交換（マーケティングの本質）として金銭だけでなく、手間・時間・心理的負担等のコストを下げ、行動の便益を実感させること。行動変容の成立要件として知識の習得、自己信念、社会的支援、実行可能性の4つが揃うと行動変容が実質的に起きるとのこと。PDCAサイクルに沿って設計・実施・評価することの重要性を挙げておられました。ゼミ生は積極果敢に社会と繋がりながら課題解決を目指しており、これまで臓器提供の意思表示促進、有限な医療資源の持続性確保に向け、若年層の予防行動（運動・食生活・事前意思共有）の後押し。など、ゼミ生がグループに別れ、決めたテーマに沿って社会の課題解決に向けて思考し活動する中で、頼もしく成長する姿が報告されました。もしご自身がソーシャルマーケティングや行動変容について詳しくお知りになりたいければ、先生の近著¹⁾をご参照ください。



瓜生原ゼミは12年目 先生曰く「ガチゼミ」
ゼミ生の仲は良くこれまでゼミ内結婚もある
これまで北海道出身学生も指導されている
※映写内容は許諾を要するため減した

■教員を囲んでテーブルトーク

つづいて教員のお二方を囲んでテーブルトークです。学業のこと、京都での生活状況のこと、各家庭のご子女と普段のコミュニケーションから課題に感じていること、などを各教員が聞き取る、いわゆるお悩み相談コーナー的プログラムです。改善案やその場で解決出来ない内容は持ち帰ってご対応頂けます。例えばカリキュラムの内容についてだったり、単位取得が予定通り進まなかった時の心構えだったり、昨夏は「熱中症対策用のウォーターサーバー前が混み合い講義間の休憩時間内に飲料水が注げず諦めてしまった。」との現状をご子女から聞き、教員に台数増加を要望したり。大小様々な悩みに真摯に耳を傾けて頂きました。



1～2回生のご父母の方々と
瓜生原先生とテーブルトーク



3～4回生のご父母の方々と
山本先生とテーブルトーク

1) 瓜生原葉子，2026，『ソーシャルマーケティング——行動変容で社会的価値を共創する』，文眞堂

■さいごに

ある学生は海を渡って他大学へ留学し異文化に触れ交友を拡大すると共に語学や興味ある分野の学びを深めることで心を豊かにし、ある学生は師となる教員と共に興味ある分野の課題を明らかにすることで解決法を見出すべく課題と向き合い、ある学生は京都と周辺の歴史的史跡や文化に触れることで過去を知り未来へ向けて自身がどうあるべきか思慮する。明治8年（1875年）、同志社の始祖新島襄^{にいじまじょう}がキリスト教主義の良心教育に基づき、自由で国際感覚が豊かな同志（学生）を育てようと設立されて150余年。志ある学生のあらゆる渴望に応える環境が揃う、比類の無い場所が京都であり同志社である、と唱えても過言ではない程学生にとり魅力的なところ。ご子女は友人だけに留まらず社会と多様な関わりを得つつ社会人として歩みを進めることでしょう。しかし多様な関わりを得ても未だ経験値は高いとは言えず確たる判断軸も持ち得ているとは言い難いこの頃は、例えば物事の善し悪しを判断する倫理的な側面など、ご父母も不安に感じたことは無いでしょうか。ご子女に於いては大いに成長の余地があると同時に繊細な一面を見せるのもこの頃の特徴。ご子女の成長を妨げない絶妙の距離感でぐっと堪えて見守りつつ、ご子女が大きな岐路に差し掛かったとき、或いは道から外れそうになったとき。どうしても必要な時が来たら手を差し伸べる。まさかの事態に陥らぬため、保護者同士が交流と情報交換で心の準備をしておくことが望ましいと考えます。ご子女が同志社大学商学部を巣立つその日まで、次回以降も共に学びましょう。

末筆になりますが休日のご多忙の折、遠く北海道までお越し頂き講話と父母会員に対し親身になりヒアリング頂いた商学部教員の山本達司先生、同瓜生原葉子先生。商学部父母会本会より北海道支部父母懇談会支援のためお越し頂いた梁裕之会長。実務レベルで手厚い支援を頂いた同本会中司加寿子監事、同本会大西景子理事。豊富な経験値を活かし多くのご助言を頂いた同本会渡会尚弘副会長。事務支援を頂いた同志社大学商学部事務室小川^{おがわ}ちさと様。当日運営にご支援頂いた北海道支部会員の杉原知美様^{すぎはらともみ}、杉原惣一様^{すぎはらそういち}、そして北海道支部父母懇談会開催に向けて支部長の傍で助言に支援に心を寄せて頂いた柳原真希副支部長^{やなぎはらまき}、そして陰に日向にご支援を頂いた多くの皆様のご支援の賜物と感じております。無事に終えられたことに対し、ここに深く感謝を申し上げ、父母懇談会の報告と致します。ありがとうございました。

文責 北海道支部長 田向 隆之



ご参加頂きまして ありがとうございます